

2018年は規模の大きな地震が続けて発生しました。近年に発生した地震で、全国ポリオ会連絡会を組織する6つの会の内、ポリオ友の会東海の地区以外は被災したこととなります。総会時に「大災害が発生！！その時、私たちはどうすれば・・・できることからはじめよう！」と「東海地方の地震に関する情報及び北海道胆振東部地震の被害状況の調査報告」の講演を行いました。東海地方では「東海地震はいつ発生してもおかしくはない。」と言われ続けています。また、東南海地震の発生も懸念されています。以下に北海道胆振東部地震発生後に北のポリオの会がまとめた被害状況等を了解を得て掲載しますので、災害発生後に後悔することのないよう、対策を実施するための参考として下さい。

大竹 利幸

2018年9月6日北海道胆振東部地震による会員への 被害調査（北のポリオの会）のまとめ

【地震の被害】

- 本棚・食器棚、テレビ等が倒れ、本の散乱、食器の破損で部屋がめちゃくちゃになった。
- 家外回りが地割れし、地面が下がりゆがんだ（液状化？）。
- 闘病生活をしていた娘が地震のショックで病状が悪化し他界した。
- 以前から幻聴と身体の揺れの症状があったが地震のストレスでさらに悪化し、地震翌日に入院避難した。

【困った事】

- 停電による被害（6時間～4日）
 - ① スマホ・携帯電話の充電ができない（ソーラーや電池からの充電器が旧型対応で使えなかった。）。
 - ② 固定電話が通じない（黒電話は停電でも使用可能、古い電話機を繋ぎ変えて対応）。
 - ③ エレベーター（マンション、個人宅）、昇降機、IHの台所、シャッター、医療器具（酸素濃縮器、呼吸器など）が動かない。
 - ④ 集合住宅（マンション等）では、停電でポンプが動かず、断水になった。トイレ、食器洗いの水をマンションでは階段で運ぶのが大変だった。車イスの後ろにかけて、近隣の施設から水運びした。

- ⑤集合住宅でエレベーターが動かず、階段の上り下りで大変だった。
- ⑥冷蔵庫の停電で、冷凍食品を廃棄した。
- スーパー・コンビニの品薄で（食料、電池）が手に入らなかった。長蛇の列で買い物が出来ない。
- 家具などの移動など、手伝ってくれる人が周りにいない。
- 病院の薬が一週間分しか出せないと言われた。
- 避難所では、ペットをどうするか心配だ。
- 在宅治療しているが、後日、先生から「開院して入院可能であった」と聞かされた。（事前に、主治医に非常時の対応や連絡方法などを確認しておく必要がある。）

【備えて良かったこと】

●家の構造設備

- ①寝室：タンスを置かないか、転倒防止をしてあった。寝ているところに物が落ちてこないようにしてあった。
- ②台所：食器戸棚の扉は引き違いが良い。
- ③各部屋：人感センサーのライトを設置していたので、足元が安心だった。
- ④全体：家具の転倒防止策を行っていた。
- ⑤自家発電付きマンションで照明は確保（エレベーターは稼働不可）

●生活習慣

- ①浴槽に残り湯を貯めていた。
- ②飲み水（2ℓで10本）、トイレ用水（空ペットボトルに2ℓで10本）を用意していた。
- ③非常食等の備蓄。
- ④天井走行リフト用電源は常時充電していた。
- ⑤就寝時、枕元にメガネ、携帯、懐中電灯（非常灯）を用意していた。
- ⑥車のガソリンが満タンにしてだったので、ガソリンスタンドで並ばずに動けた。（複数名）
- ⑦家具上部に物をのせない、歩く所に（床）も物を置かない、調理後の汁物などはガス台の壁の方へ移動するなど、気を付けていた。

●物品

- ①ラジオ、乾電池、カセットガスコンロ、ローソク（長時間用）、非常灯（LEDが長持ち）、懐中電灯（車椅子・杖利用者はネックライト、ライト付き杖、キャンプ用ヘッドライトなど）
- ②水、非常食（インスタント食品・乾物・レトルト食品でも可）

- ③紙おむつ、簡易トイレ
- ④車から12Vを100Vにするインバーター、石油ストーブ（ファンヒータはダメ）
- ⑤在宅治療者は、関連する薬品・器具の備蓄、非常電源等

【実際の対応】

- 車のナビでテレビを見て、ラジオも携帯も車から充電した。
- 携帯用のカーナビをテレビの代用にした。
- 公衆電話を利用しようと思った。公衆電話が少ないので、場所を覚えておいたほうが良い。
- 風呂の残り湯をトイレに利用した。
- 手まわしラジオをずっと回して聞いていた。
- ポータブルのガスコンロでご飯を炊き、沸かしたお湯でレトルト食品を温めた。
- 夜、人工呼吸器を使っているため保健師さんから電話を頂き、発電機を役所から借りた。
- スーパーから食料品などを配達してもらった。
- 近くの家族や親戚の家に行った。
- お風呂が沸かせないので、停電が長引いたら、温泉に行こうと思った。お風呂が入れなければ、足湯だけでもよいかも。
- 道路の信号がついていないということだったので、外出は控えた。

【人的支援】

- 民生委員さんが安否確認に来てくれた。（だいぶ前に登録していた）。
- 町内会の役員、民生委員、隣近所・団地の方々が声かけてくれた。
- 近くに住む友人が水を持ってきてくれた。
- サービス付き高齢者向け住宅に入居しているので、地震発生後、スタッフが部屋を見まわり、お風呂に水をためるように等の指示をしてくれた。食事も簡易なものが、翌日の昼まで無料で提供してくれた。

【情報】

- 地元ラジオ局の情報（営業している温泉、ゴミ収集変更、充電できる場所）が信頼できた。
- 10日位後に回ってきた回覧板で、町内会館にいろんな情報を張り出していたことを知った。

【ポリオ会・行政への要望等】

- 会の方から、行政へ障害者が行ける避難所を教えて欲しいという働き掛けをして欲しい。
- 福祉避難所の情報が知りたい。福祉避難について詳しく知りたい。
- 災害になった時に障害者の手助けとか具体的な話し合いを行政にして欲しい。
- 障害者が置き去りにならないために行政と連絡を密にする事を望む。
- 震災に備えておけば便利なグッズを実際に手に取って学べる場が欲しい。
- 災害時のスペシャリストの方からの講演会。あらためて必要な物のリストや避難所での心得など教えて欲しい。
- 大地震の時は、近くの病院と福祉センターなどに近い場所に避難場所を設置して欲しい。
- 避難設置場所が近いところに欲しい。



（総会時の講演の様子等）

